

平成19年度 市民公募型パートナーシップ事業 採択一覧

\*順不同

団体名	代表者名	事業名	概要
大宮社会福祉協議会 環境部会	亀井 剛	「ふれあい夏祭り」等におけるリユース食器の導入促進	これまで使い捨ての容器を使用していた「ふれあい夏祭り」においてリユース食器を導入し、ごみの減量に取り組んだ。また、その後もリユース食器を地域の「地藏盆」等のお祭りにも導入し、リユース食器の利用を促進している。
特定非営利活動法人環境安全センター	郡嶋 孝	生ごみ堆肥化と市民農園などへの堆肥投入の可能性調査	京都市内と近郊で市民農園や農地への堆肥の投入状況について聞き取りやアンケートで調査し、処理した生ごみの受け入れ状況の調査や受け入れニーズを把握し、今後の堆肥投入の可能性を探った。
特定非営利活動法人環境市民	榎本 育生	連続セミナー「地球温暖化を防ぐ5つの行動提案」の開催と環境ハンドブックの作成・普及	ごみの削減、経済のグリーン化、子どもと環境問題などを話題に各分野の実践活動者や第一線研究者らを講師に6回連続の環境講座を開催。また、昨今の様々な環境問題に関する異説等の影響により来場者が抱いていた環境問題における疑問に答えるための「環境ハンドブック」を作成し配布、普及に努める。
京都工芸繊維大学・繊維リサイクル技術研究センター	木村 照夫	“繊維リサイクルモデル都市京都”構築に関する調査研究と学校制服を素材とする紙作り	学校制服にターゲットを絞り、制服業、一般市民の協力を得ながら繊維リサイクルの実態調査を行った。また、リサイクル手法の一つとして学校制服を素材とする紙づくりの研究を行った。
京都における魚あらしサイクルシステム研究会	大西 啓子	市内の未回収魚アラの実態調査とシンポジウムの開催	魚あらしを排出する可能性のある事業所にアンケート調査を実施し、魚あらしの発生量や分別排出の可能性などについて調査を行った。また、魚あらしサイクルのあり方についてシンポジウムを開催した。
美しい祇園祭をつくる会	松井 恵	祇園祭におけるごみ削減を目的とした活動及び分別回収と協働・連携を高めるための基盤作り	祇園祭にて、ごみの分別回収、露天商の状況調査やごみ減量参画への聞き取り調査を行った。また、ごみ減量に向けて山鉾連合会や各種関係者、行政とより緊密な協働活動を目指し協議を重ねた。
特定非営利活動法人資源循環型社会推進機構(RCS)	上森 英孝	2007 京都マイバッグ・エコバッグデザインコンテスト	マイバック・エコバックのプリントデザインをコンテスト形式で広く公募し、受賞作品を商品し販売。レジ袋の削減につなげる。
特定非営利活動法人プラスワンネットワーク	川名 卓夫	キャラクターで知る、考える環境問題	幼稚園の教員、保護者、作家と協働し、子どもを対象にした、ごみの減量に関する絵本を作成。京都府下の幼稚園に無料で配布したり、絵本を使ったワークショップや読み聞かせを開催した。

伏見板橋地域 女性会	高橋 肇子	ペットボトル回収事 業	地域女性会と知的障害者施設が協働でペット ボトルを回収し、リサイクルに適した形で業 者に渡すことで、リサイクルの促進を図る。
日本環境保護 国際交流会 (J.E.E.)	細木 京子	「英語版 京都市の ごみの出し方」	京都市在住の外国人、留学生を対象として、 ごみの出し方や日本のごみの現状、ごみ問題 に取り組む姿勢を漫画を通してお知らせす る。また、その漫画をごみ減量や環境の啓発 活動をする際に自由に活用できるような資料 として作成することで普及啓発に努める。
スマイルエコ♥ 南	吉田 万基子	南区内におけるエコ キャップ回収運動	再資源化率の向上を目指し、南区内でエコ キャップ（ペットボトルのキャップ等）の回 収ルート作りを行い、回収したエコキャップ 等をリサイクル業者で換金し、その収益を未 来を担う子どもたちへの支援に活用する。
びっくり！エ コ100選実行 委員会	浅利 美鈴	市民と企業との交流 による“ごみ減量・ 環境教育”プロジェ クト	企業・団体のごみ減量を中心とする環境に関 する取組を市民に紹介する見学会を開催し、 施設の見学や市民との情報・意見交換を行っ た。
家庭製品中の 鉛等のリサー チチーム	森田 知都子	家庭製品中の鉛等リ サーチプロジェクト	レジ袋やプラスチック製品に含まれる鉛等 について分析を行い、含有実態を把握、制御策 を検討。関係者への働きかけを行う。